

平成 28 年度

(平成 28 年 (2016 年) 4 月 1 日～平成 29 年 (2017 年) 3 月 31 日)

事業報告書

平成 29 年 5 月

公益財団法人浜松国際交流協会

目次

事業実施の背景と取り組み	3
事業報告	
多文化共生のまちづくり	
1. 相談事業	5
①外国人市民のための生活相談（市委託：多文化共生センター事業）	
②ワンストップ相談コーナーの運営（他機関連携事業）	
③出張相談（市委託：多文化共生センター事業）	
④中国残留邦人支援事業（市委託事業）	
⑤法律相談（自主事業）	
⑥行政書士相談（自主事業）	
⑦税務相談（自主事業）	
⑧メンタルヘルス相談（市委託事業）	
⑨ソーシャルワーク研修（市委託：多文化共生センター事業）	
⑩コミュニティ・エンパワメント（市委託：多文化共生センター事業）	
2. 日本語学習支援事業	11
①日本語学習支援講座（市委託：外国人学習支援センター事業）	
②学習支援ボランティア養成講座（市委託：外国人学習支援センター事業）	
③地域日本語学習支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業）	
④浜松版地域日本語教師養成事業（文化庁委託事業）	
3. 外国につながる次世代支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業）	18
①外国人子ども学習支援ボランティア活動コーディネート	
②外国につながる若者の学び直し教室	
③外国につながる青少年のキャリア支援	
④外国人の子どもの不就学ゼロ作戦	
4. 地域共生事業（市委託：多文化共生センター事業）	24
①各地域への個別支援	
②地域共生自治会会議	
5. 多文化防災事業（市委託：多文化共生センター事業）	25
①災害時多言語支援センター設置訓練	
②モデル地区を設定した多文化防災訓練の実施	
③災害時に備えたネットワークの強化	
④災害・防災情報の提供	
6. 多様性を生かしたまちづくり事業（市委託：多文化共生センター事業）	27
①はままつ多文化共生 MONTH 事業コーディネート	
②文化・スポーツ紹介	
③地域活性化事業	

グローバル感覚に優れた人づくり

1. グローバル人材の育成と活用	29
①地球人教育出前講座及びコーディネート（市委託：多文化共生センター事業）	
②国際理解教育講座（自主事業、市委託：多文化共生センター事業）	
③第7回はままつグローバルフェア（自主事業）	
④多文化体験・交流事業（市委託：外国人学習支援センター事業）	
2. 国際交流・理解のための外国語講座	33
①国際交流のための外国語講座（自主事業）	
②国際交流のための外国語サロン（自主事業）	
③外国人支援者のためのポルトガル語講座（市委託：外国人学習支援センター事業）	
3. 国際交流・理解のためのイベント(自主事業)	36
①ウエルカム・イベント	
②親子で English	
③多言語 de 世界のクッキング体験	
④第6回ポルトガル語スピーチコンテスト	
⑤オリンピックの前に知っておきたい～世界の文化の集まる国・ブラジルセミナー	
⑥ラテンフィットネス・マリネラダンス体験講座	
⑦「THE TRUTH 伝えきれなかった真実 2016」上映会・久保田弘信講演会	
4. 担い手の育成：ボランティア活動支援事業（自主事業）	39
①HICE ボランティアバンクの運営	
②ホームステイ・コーディネート	
③通訳ガイドボランティア研修会	
5. 担い手の支援：国際交流活動支援事業	40
①多文化共生・国際交流推進事業費補助金の交付（浜松市補助金）	
②天竜地域事業（自主事業、市委託：外国人学習支援センター）	
③セミナールームの活用（市委託：多文化共生センター事業）	
④多文化共生・国際交流活動支援事業（市委託：多文化共生センター事業）	
6. 情報提供事業	44
①機関紙 HICE NEWS の発行（自主事業）	
②ホームページの運営（自主事業）	
③Facebook の運用（自主事業）	
④HICE info メールによる情報配信（自主事業）	
⑤CIR NEWS の配信（自主事業）	
⑥情報カウンターの設置（市委託：多文化共生センター事業）	

事業実施の背景と取り組み

外国人の受け入れをめぐって様々な動きが活発化している。2016 年末に技能実習制度の適正化の法案と「介護」の在留資格を新設する入管法の改正案が成立した。新規に技能実習生の受入検討を始める企業が増加、また日本語学校の新設も相次いでいる。日本語学校在学中の留学生にアルバイトとして働いてもらう動きや日本語学校から専門学校への進学、さらには専門職としての就職を視野にいった動きも活発になっている。介護分野において在住外国人を研修して働いてもらおうという動きも再燃している。1980 年代のバブル経済期並みの人手不足を背景に、国外から外国人を導入する動きと、既に国内で定住する在住外国人を新たな人材として見直し、製造業以外の職種にもつなげていきたいという産業界の思惑が今後大きく社会を動かしていくであろう。

浜松市では平成 28 年度は「多文化共生都市ビジョン」の 4 年目、「国際戦略プラン」の 3 年目であり、当協会においてもそれらの基本方針を念頭に事業を展開している。

当協会における平成 28 年度の重点事業は、引き続きの事業として「浜松版地域日本語教師養成事業」「多文化防災事業」、新規事業として「若者のための学習支援」「外国につながる持つ青少年のキャリア支援」であった。

「浜松版地域日本語教師養成事業」は文化庁委託事業として行い、日本語教師の量と質の不足の解消に取り組んだ。しかし、実際は地域で日本語学習支援を行っている個々の団体だけでその課題を解決することは非常に難しく、日本語教師を養成する民間機関との円滑な連携、ならびにそれを地域の支援団体につなげるコーディネーター役が必要であることがわかった。また、地域の日本語教育の充実を地域だけで図るには限界があり、より一層、国との連携が欠かせないこともわかった。今後も中間支援組織として継続的かつ円滑な連携に力を入れていきたい。

「多文化防災事業」では、昨年度養成した災害時多言語ボランティアを活用し、実践的な災害時多言語支援センター立上げ訓練を実施、関係者の自覚と意識が高まるとともに、具体的な課題が浮き彫りとなった。今後、より具体的なマニュアルの整備・改定を行いながら継続した取り組みが求められる。

一昨年度から取り組んでいる「若者のための学習支援」では、初めて毎日開催するクラスを 3 ヶ月行った。特にフィリピン出身の若者のニーズが高く、来日してすぐの若者に対する日本語学習と仲間作りの場の提供としては一定の効果があつた。しかし、日本の生活に目的意識を持ち、仕事や進学、学習の継続など次のステップへつなげていくには資金面、人材面等さまざまな課題があることも明らかになった。

新規事業として取り組んだ「外国につながる青少年のキャリア支援」では、定時制高校や外国人学校などに在籍する青少年へアンケート調査を行い、さらに関係機関や支援者とのネットワークを築くことができた。就職等までつながるキャリア支援のしくみを模索し、関係者が課題を共有し、同じテーブルについたことが今回の成果である。今後はこれを実質的な成果へつなげていきたい。

組織面としては、中期計画の最終年であった。引き続き研修制度を充実させることで専門人材の育成と確保につなげていき、結果として質の高い事業やサービスの提供ができるようにしていきたい。

公益 1 多文化共生のまちづくりと グローバル感覚に優れた人づくり

多文化共生のまちづくり

1. 相談事業

多言語生活相談、ワンストップ相談、中国残留邦人支援、法律相談、税務相談、メンタルヘルス相談、ソーシャルワーク研修、コミュニティ・エンパワメント

2. 日本語学習支援事業

日本語教室、学習支援ボランティア養成講座、地域日本語学習支援事業、浜松版地域日本語教師養成事業（文化庁委託 164.8 万円） ★重点事業

3. 外国につながる次世代支援

不就学ゼロ作戦、若者のための学習支援
外国につながる青少年のキャリア支援 ★新規・重点事業

4. 地域共生事業

各地域の個別支援、地域共生自治会会議

5. 多文化防災事業

災害時多言語支援センター設置訓練 ★重点事業
災害・防災情報の提供

6. 多様性を生かしたまちづくり

多文化共生 MONTH、地域活性化セミナー
外国につながる若者グループの支援等

グローバル感覚に優れたひとづくり

1. グローバル人材の育成と活用

地球人教育出前講座、国際理解教育講座、グローバルフェア、多文化体験

2. 国際交流と国際理解の推進

外国語講座、外国語サロン、支援者のためのポルトガル語講座、国際交流・理解のための各種イベント

3. 担い手の育成と支援

ボランティアバンク活用、ホームステイ、HICE 補助金、天竜地域事業、セミナールームの活用、活動支援事業

4. 情報提供事業

HICE NEWS、ホームページ、Facebook、情報コーナー
情報提供カウンター

多文化共生センター

外国人学習支援センター

多文化共生社会の推進

事業報告

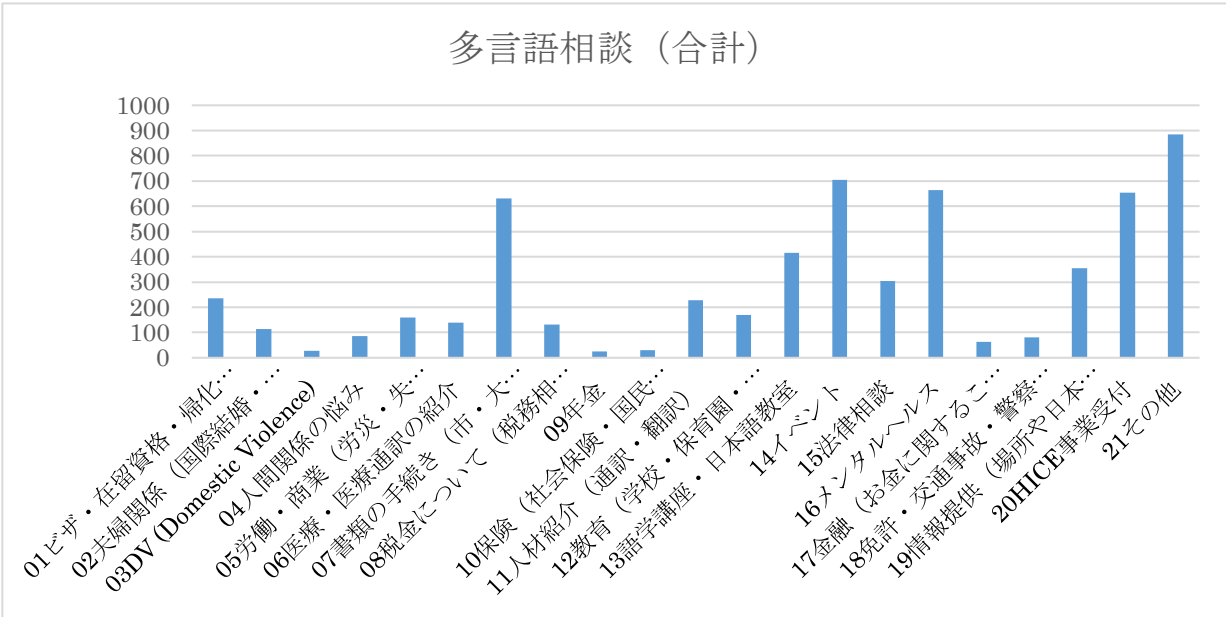
多文化共生のまちづくり

1. 相談事業 **参加者数：延べ 8,346 人（昨年度 9,116 人）**

① 外国人市民のための生活相談（市委託：多文化共生センター事業）

(6,096 件)

言語	曜日	時間	相談件数
ポルトガル語	火曜日～日曜日	9：00～17：00	3,003
スペイン語	日曜日	13：00～17：00	251
タガログ語	木曜日	13：00～17：00	545
中国語	金曜日	13：00～17：00	98
英語	月曜日～金曜日	13：30～16：30	90
日本語	月曜日～日曜日	9：00～17：30	2,109
合計			6,096



ビザ・在留資格	夫婦関係 (離婚他)	DV (Domestic Violence)	人間関係の悩み	労働 (労災・失業・起業)	医療・医療通訳の紹介	書類の手続き	税金	年金	保険 (社会保険等)	人材紹介 (通訳・翻訳)	教育 (学校・保育園)	語学講座・日本語教室	イベント	法律相談	メンタルヘルス	金融 (お金に関すること)	免許・交通事故	情報提供 (場所など)	HICE事業の受付	その他
235	113	28	87	159	138	631	132	25	29	228	169	415	705	303	665	62	80	355	653	884
合計 6,096 件																				

■相談内容・傾向

外国人の多様化が進んでおり、英語、ポルトガル語、スペイン語、タガログ語以外の言葉を話す外国人からの相談が増え続けている。技能実習生や家族滞在、留学生などの在留資格の外国人から日本語で広いニーズの相談が寄せられてきている。全体の相談内容は市内で行われているイベント情報はじめ、心理的な相談、行政の手続きなどについての相談が多かった。

■各言語別の傾向

ポルトガル語	自立支援医療受給者証の手続きや心理的な悩み、子どもの発達、言語聴覚士についての相談が目立った。ブラジル人の定住化が一層進んでいることを背景に、家の購入や年金手続きについての相談もあった。
スペイン語	奨学金、子どもの扶養手当、労災、交通事故、借金やクレジットカードについての相談などがあった。相談者は主にペルー人。
タガログ語	昨年度に引き続き、パスポート更新その他大使館への各種届出の手続きの相談が多かったが、フィリピン人の若者からの悩みや子どもの予防接種、税金、保育園、学校の部活、離婚手続き、労災などについての相談もあった。
中国語	日本語教室の情報や日本人男性と結婚している中国人女性から夫婦関係の悩み事やそれと関連して遺産相続や子育てなどの相談があった。
英語	英語圏やそれ以外の英語話者からの相談。資格外活動許可、日本語教室、難民申請、会社の立ち上げや訴訟のことなど、多国籍化に応じて幅広い分野での相談が寄せられた。
日本語	国際結婚、在留資格、運転免許証の切り替え、通訳の紹介などについてベトナム、パキスタン、モンゴル、台湾、ネパールなど多国籍な相談者からの相談。

■課題

2008年のリーマンショック後をピークに、相談件数は年々減っている。その背景として、在住外国人、主にブラジル人の減少が長く続いたこと（平成28年度は微増）、市や他の行政機関などの相談員や通訳対象に行ってきたソーシャルワーク研修の効果が出ており、ある程度の相談はそれぞれのところで解決できるようになったことなどが挙げられる。

しかし、様々な機関で対応に困って最終的にHICEに回されてくるなど困難なケースは増えている。このような場合、単純に他機関へつなぐだけではなく、ソーシャルワーク的な動きが必要なことがあり、より一層、相談員の専門性が求められるようになってきている。

② ワンストップ相談コーナーの運営（他機関連携事業）（117 件）

入国管理局と連携して、専門相談の窓口を配置した。

件数 延べ 117 件

③ 出張相談（50 件）

日時 6 月 26 日（日）

出張先 浜松市総合産業展示館（浜松カトリック教会主催 フェスタジュニーナ）

件数 50 件

④ 中国残留邦人支援事業（市委託事業）（492 件）

中国在留邦人とその配偶者で、世帯の収入が一定の基準に満たない者に対し生活支援費を給付する際の業務補助、相談、通訳等の支援のために、相談員を配置し、通訳を派遣した。

■市内区役所（中・南・東・北）の福祉事務所に中国語による支援相談員 1 人を配置

日時 週 3 日 13:00～17:00（140 日）

内容 病院にかかる際の言葉の心配、介護サービス申請の支援、子弟の教育や就職など

件数 延べ 330 件

対象 12 世帯 17 人

■医療機関等へ通訳を派遣

件数 162 件

対象 14 世帯 43 人

⑤ 法律相談（自主事業）（56 人）

毎月第 4 木曜日に弁護士による法律相談を行った（12 月を除く 全 11 回）。

相談者数 延べ 56 人

協力 静岡県弁護士会、関東弁護士連合会（11 月の拡大法律相談）

⑥ 行政書士相談（自主事業）（26 人）

毎月第 2 日曜日に日本での営業許可、国際結婚、会社設立、在留資格などの行政書士相談会を行った（2 月を除く 全 11 回）。

相談者数 延べ 26 人

協力 静岡県行政書士会 西遠支部

⑦ 税務相談（自主事業）（58 人）

日時 平成 29 年 2 月 4 日（土）9:30～16:30

内容 確定申告を必要とする外国人を対象に、通訳（ポルトガル語、スペイン語、タガログ語）をつけて、申告がスムーズに行えるように支援した。

参加者 相談者 47 人、通訳 6 人、税理士 5 人 合計 58 人

協力 東海税理士会浜松西支部

⑧メンタルヘルス相談（市委託事業）（1021 件）

ブラジル人心理士 2 人を配置し、ポルトガル語でのメンタルヘルス相談及び精神科等への同行通訳を行った。

■相談

日 時 週 5 日 9:00~17:00 週 2 日（火・金）は夜 9:00 まで

件 数 延べ 626 件

内 容 相談の主な内容としては、家庭内の人間関係（夫婦仲や義理の父母と子どもとの関係など）や職場での人間関係、宗教狂信による不安やパニック、子どもについては学習困難、ゲーム依存、日本の文化や学校に適應できない等であった。相談件数は昨年度より 1 割増加し、継続相談が 7 割以上と年々ニーズが高まっている。相談者は大人が 7 割で、精神疾患又はその傾向がある人が約 6 割と精神科や専門機関へつなぐケースが増えている。

新しいニーズとしては、会社の従業員のメンタルヘルス相談の依頼があった。学校から児童生徒と家族のカウンセリングの要望もあった。

課 題 メンタル的な問題だけでなく、社会経済的な問題を抱えている場合は具体的な支援の手続きの支援が必要になるなどソーシャルワーカーが関わって支援をして行くことが望ましいこともある。

■通訳派遣

件 数 延べ 270 件（依頼数 327 件、うちキャンセル 57 件）

内 容 精神科や発達相談関連の受診・相談に対し、専門性のある通訳を派遣。今年度は 8 割以上が子どものケースだった。大人のケースは少なかったが、入院、自殺未遂、仕事もできないほどの鬱病やパニック障害等重いケースがあった。

課 題 長期に渡って治療を必要とする患者が増えており、昨年依頼数に対して今年度は 16% 増加したが、キャンセル数も多く調整が困難な場合もある。

病院や発達相談関連の通訳以外の生活についての相談が増えてきており、社会経済的な支援等が必要な場合はソーシャルワーカーが関わって支援をして行くことが望ましいこともある。殺人やドラッグ使用、精神病院入院、DV、虐待等の経験がある患者は通訳にとどまらず、かなりのサポートが必要である。

■ペアレント・トレーニング指導者養成研修

発達障害の子どもに対する親の接し方を指導する「ペアレント・トレーニング」講座をポルトガル語やスペイン語で直接外国人保護者に行うことのできる指導者を養成する研修を平成 25 年度より行っている。

今年度は、平成 25 年度よりペアレント・トレーニング研修を受けてきた 4 名と、新たに募集した 10 名を対象にペアレント・トレーニング指導者養成研修を継続して 5 回行った。1 回目はペアレント・トレーニングについての説明、その後 4 回に渡って研修の一環として保護者向けに実践を行った。

内 容 ①ペアレント・トレーニング指導者養成研修

日 時：7月17日（日）9：30～12：00

講 師：野村和代（常葉大学講師）

参加者：19人（ブラジル人・ペルー人）

②ペアレント・トレーニング指導者養成研修（実践編4回）

日 時：9月24日、10月8日、29日、11月5日 各土曜日9：30～11：00

アドバイザー：野村和代（常葉大学講師）

参加者：講師役2人 スタッフ4人 研修参加者計36人

保護者計20人

延べ83人（ブラジル人・ペルー人）

成 果 ブラジル人・ペルー人の保護者にとっては、ペアレント・トレーニングを直接ポルトガル語で受講できる機会となっている。さらに、研修を受けた外国人相談員や通訳者が自立し、ペアレント・トレーニングの実践者として自ら活躍できるように成長してきている。今まで研修を積み重ねて来たメンバー4名が次年度より自主グループとしてペアレント・トレーニングの出前講座を行うことになった。

■メンタルヘルスに関する啓発講習会（小集団活動）

①保護者交流会「HICE へようこそ」

日 時 7月24日（日）

会 場 多文化共生センター

参加者 29人

内 容 メンタルヘルス事業を利用している患者や発達医療機関で受診している子どもとその保護者を集めて交流会を行った。保護者が参加しやすいように全てポルトガル語で行った。子連れで参加出来るように子ども対応のスタッフをつけた。内容は、HICEの事業紹介、メンタルヘルスについての講話、参加者同士の情報交換、交流会。

②浜松いのちの電話のポルトガル語相談員を対象として、メンタルヘルスに関する研修会を実施。

日時	テーマ	会場	参加者
6月18日（土）	健康に影響をあたえる精神的及び社会要因	浜松いのちの電話	3人
8月13日（土）	性的虐待 I	浜松いのちの電話	6人
12月17日（土）	性的虐待 II	浜松いのちの電話	4人
合計			13人

⑨ソーシャルワーク研修（市委託：多文化共生センター事業）（105人）

内 容 市や各機関・企業等の通訳や相談員が、多種多様な通訳場面や相談に対応するために、専門的知識を習得し、外国人市民の生活支援にあたるためのノウハウや心構えを学ぶ研修を行った。

対 象 各機関で外国人の通訳や相談にあたるバイリンガル者

ブラジル、ペルー、アルゼンチン、中国、フィリピン、日本

日時	テーマ	会場	参加者
8月23日(火) 13:30~16:30	市役所ポルトガル語通訳者研修	トバセ・エヴェルトン (Alternativa 編集長、NHKワールド、BBC ブラジルでのリポーター)	23人
12月3日(土) 10:00~12:00	給与明細の見方と年末調整、確定申告 (フィリピン・ナガイサと連携)	税理士 澤谷智志(税理士法人黎明 祖父江会計事務所)	32人
2月2日(木) 17:15~18:15	医療通訳研修~外国人が日本の病院にかかるときに困ること・戸惑うこと (静岡県国際交流協会と連携)	フランシア・イヴォン・チンチャ(コロンビア出身・榛原総合病院 臨床修練医)	50人
合計			105人

⑩コミュニティ・エンパワメント (市委託：多文化共生センター事業) (442人)

内容 国籍別・言語別にそれぞれのニーズに応じてテーマを設定し、各言語によるセミナーを行った。

対象 各外国人コミュニティの一般人

7月3日(日) 14:00~15:30	(ブラジル人対象) マイナンバーセミナー	浜松市政策法務課	10人
8月6日(土) 10:00~17:00	(フィリピン人対象) 多様なサービス・情報の提供 (フィリピン・ナガイサと連携)	司法書士ほか	327人
10月16日(日) 14:00~19:00	ブラジル労働セミナー (在浜松ブラジル総領事館と連携)	社会保険労務士ほか	87人
11月27日(日) 14:00~16:00	(ブラジル人対象) 法律相談セミナー (芳川団地にて) (司法書士会と連携)	司法書士	18人
合計			442人

2. 日本語学習支援事業 参加者数：延べ 10,885 人 16 件（昨年度 12,646 人 30 件）

①日本語学習支援講座（市委託：外国人学習支援センター事業）（5,638 人）

在住外国人に対して日本語支援を行う地域日本語教室。日常生活を行う上で必要な日本語コミュニケーション能力を学ぶ初級クラス、日本語の基礎的なルールを学ぶ文法クラス、ひらがな、カタカナ、初級レベルの漢字、読みもの等を学ぶ読み書きクラスを開催。

協働団体：With U-Net

○初級クラス （受講者数 延べ 2,956 人）

	講座名	回数	日付	受講者
第1期	入門①	10	4月15日～4月28日	117人
第2期	入門②	10	5月19日～6月17日	48人
第3期	入門①	10	8月8日～8月29日	95人
第4期	入門②	10	9月9日～10月14日	30人
第5期	入門①	10	12月5日～12月16日	111人
第6期	入門②	10	1月12日～2月10日	30人
第1期	初級①	24	5月9日～7月1日	420人
第2期	初級①	24	9月2日～10月31日	542人
第3期	初級①	24	1月11日～3月6日	294人
第1期	初級②	24	5月9日～6月29日	527人
第2期	初級②	24	8月31日～10月31日	200人
第3期	初級②	24	1月10日～3月6日	297人
第1期	初中級	15	5月9日～9月12日	111人
第2期	初中級	15	10月24日～2月27日	134人

○読み書きクラス （受講者数 延べ 2,365 人）

	講座名	回数	日付	受講者
第1期	読み書き	40	5月11日～9月30日	1,167人
第2期	読み書き	40	10月12日～3月17日	1,198人

○文法クラス （受講者数 延べ 252 人）

	講座名	回数	日付	受講者
第1期	基礎文法	10	6月30日～7月29日	90人
第2期	基礎文法	10	10月28日～12月2日	87人
第3期	基礎文法	10	2月23日～3月24日	75人

○N4クラス （受講者数 延べ 65 人）

	講座名	回数	日付	受講者
第1期	基礎文法	10	4月7日～6月30日	65人

②学習支援ボランティア養成講座

(市委託：外国人学習支援センター事業) (1,074人)

■日本語ボランティア養成講座

地域における日本語学習支援で必要とされる知識や技術を学ぶボランティア養成講座を開催。

協働団体：ネクスト

全16回/各期

	期間	受講者
第1期	6月1日～10月19日	延べ298人
第2期	11月22日～3月24日	延べ368人
合計		666人

プログラム例：日本語文法、異文化理解、外国語体験、外国人児童の現状
ボランティア体験

■日本語ボランティア実地研修

日本語教室を見学し、他者の活動内容や教授技術を学ぶ。

教室後の振り返りに参加し、参考になった点や気付いた点を述べ技術を高め合う。

見学シートを提出し、他者の教室活動を客観的に評価するとともに自己研鑽に努める。

日本語教室・初級クラス	延べ126人
日本語教室・読み書きクラス	延べ50人
日本語教室・N4、文法（基礎文法）クラス	延べ27人
若者日本語教室・初級・入門クラス、作文・漢字・JLPTクラス	延べ57人

■日本語学習支援者スキルアップ講座

回	日時	内容	講師	受講者
1	10月7日	日本語教室で実践！ 『多読』を始めよう！	栗野真紀子 (NPO 多言語多読)	20人
2	10月7日	日本語教室で実践！ 『多読』を始めよう！	栗野真紀子 (NPO 多言語多読)	20人
3	1月5日	ワークショップで学ぶ 「コミュニケーション力アップ」	山口権治 (浜松江之島高校教諭)	26人
4	1月5日	ワークショップで学ぶ 「コミュニケーション力アップ」	山口権治 (浜松江之島高校教諭)	26人
合計				92人

■教職員多文化共生講座

小中学校教職員等外国人支援者を対象とした夏季限定講座

協働団体：セメンチ パラ オ フトゥーロ

8月3日（水）9：00～16：30

回	時間	内容	講師	受講者
1	9:00～10:30	学校で使えるポルトガル語	セメンチ パラ オ フトゥーロ	15人
2	10:45～12:15	誤解される日本語～学校現場で起こった事例から～	セメンチ パラ オ フトゥーロ	15人
3	13:00～14:30	継承語と現地語でゆれる親子の取組	セメンチ パラ オ フトゥーロ	13人
4	14:45～16:15	「ひょうたん島問題」から多文化共生を考える	浜松国際交流協会	13人
合計				56人

③ 地域日本語学習支援事業（市委託：外国人学習支援センター事業）

(3,936人16件)

■日本語学習支援団体ネットワーク会議

日本語学習支援団体間の情報の共有や共通課題の克服のためにネットワーク会議を開催した。

参加者 12人 「第1回ボランティアによる情報交換会」

回	日時		参加団体	参加者
1	12月26日	13:30～15:00	【放課後支援】龍の会、南の星小学校放課後勉強室、そらの会、浜名小学校	12人

■地域日本語学習コーディネート業務（357人16件）

- ・養成講座修了生による自主グループ「おしゃべりクラス」運営支援

「おしゃべりクラス」17回開催 延べ357人参加

- ・日本語学習支援ボランティアコーディネート（大人）

日本語学習支援団体や個人に日本語教師およびボランティアを紹介 16件

内訳：団体1件、個人15件

■フィリピン人児童・生徒を対象とした就学支援教室（ハロハロ教室）

協力 NPO法人フィリピンナガイサ

会場 南部協働センター

期間	曜日	時間	参加者（延べ）	
			はじめての日本語教室	寄り添い教室
5月7日～3月18日 （全36回）	土曜日	13:30～15:30	331人	727人

■ベトナム人の子ども学習支援（三方原教室）

協力 静岡県ベトナム人協会

会場 三方原協働センター

期間	曜日	時間	参加者(延べ)	
			低学年教室	高学年教室
6月8日～3月22日 (全35回)	水曜日	18:00～20:00	253人	206人

■浜北日本語教室

協力 浜北国際交流協会

会場 浜北文化センター 他

期間	曜日	時間	会場	参加者 (延べ)
4月2日～3月25日 (全56回)	土曜日	13:30～17:00	浜北文化センター	1,500人
4月4日～3月26日 (全24回)	土曜日	午後	企業の寮	192人

文化交流

5月	長篠のぼり祭り	15人
11月	奈良観光	43人
12月	日本語能力試験おつかれさま会	60人
1月	書初め	40人

日本語スピーチコンテスト

日 時 平成29年1月29日(日)

会 場 なゆた浜北3階「なゆたホール」

出場者 16人

来場者 約200人

④浜松版地域日本語教師養成事業（文化庁委託事業）（237人）

地域国際化協会である当協会は中間支援組織として、地域の特徴や現状を見極め、それに適した日本語教育ができる人材を養成していくことが将来的に当地域の日本語教育が充実することと考え、平成27年度文化庁委託事業で検討した浜松版地域日本語教師養成講座を実施した。また、既存の地域日本語学習支援団体に所属する日本語教師や、日本語教師の資格を取得中の方々の横のつながりを築くため、情報交換、情報共有を積極的に図った。

■取組 1 浜松版地域日本語教師育成講座

平成 27 年度の文化庁委託事業で開発したカリキュラムを実行した。その際、カリキュラム開発メンバーと実行委員会形式で講座の運営を行った。講座後の実行委員会では、振り返りと次回の改善案をまとめることができ、継続的な地域日本語教師養成事業に向けての足がかりとなった。

【前半】連続公開講座（一般 26 人、日本語教師 12 人）

	日時	内容	講師
1	9月17日（土） 13:30～15:30	地域理解 （浜松市の外国人住民の現状、在留資格）	内山夕輝 (HICE)
2	9月17日（土） 15:40～17:10	地域理解 （技能実習生への日本語教室の企画体験）	
3	9月24日（土） 13:30～15:00	異文化コミュニケーション① （世界の価値観）	原沢伊都夫 (静岡大学教授)
4	9月24日（土） 15:10～16:40	異文化コミュニケーション② （アサーティブ・コミュニケーション）	
5	10月1日（土） 9:30～10:45	世界の移民統合政策 （欧州、韓国、台湾の移民統合政策）	山脇啓造 (明治大学教授)
6	10月1日（土） 11:00～12:30	日本の移民統合政策（多文化共生施策） 浜松市の多文化共生施策	山脇啓造 (明治大学教授) 石塚良明 (浜松市国際課課長)
7	10月8日（土） 13:30～15:00	言語政策と地域日本語教育 （言語政策、言語権の保障、多言語主義）	河原俊昭 (岐阜女子大学特任教授)
8	10月8日（土） 15:15～16:45	やさしい日本語から多文化共生を考える （やさしい日本語ルール、活用方法）	水野義道 (京都工芸繊維大学教授)
9	10月29日（土） 13:30～15:00	ひょうたん島問題から学ぶ多文化共生の ジレンマ①	藤原孝章 (同志社女子大学教授)
10	10月29日（土） 15:10～16:40	ひょうたん島問題から学ぶ多文化共生の ジレンマ②	

【後半】実践（日本語教師 12 名（途中離脱 1 名））

	日時	内容	講師
11	11月5日（土） 10:30～12:00	発話を引き出す質問力を養う	嶋田和子 (一財)アクラス日本語教育研 究所代表)
12	11月5日（土） 13:00～14:30	対話をする力・響き合う力を養う	

13	11月5日(土) 14:45~16:15	グループワーク (導入・多様な現場を知る)	
14	11月12日(土) 13:30~15:00	プロジェクトワーク (導入・学習者と協働で自分史作成を行う)	坂本勝信 (常葉大学准教授)
15	11月12日(土) 15:15~16:45	プロジェクトワーク (計画・学習者と協働で実習計画を立てる)	
16	12月3日(土) 13:30~15:00	自己教育力 (教師の3つの力、学習者と向き合う)	田尻悟郎 (関西大学教授)
17	12月3日(土) 15:15~16:45	自己教育力 (英語指導の実践から日本語教育のヒントを得る)	
18	12月10日(土) 10:30~12:00	HAJAC とは何か	鈴木由美恵 (HICE)
19	12月10日(土) 13:00~14:30	HAJAC を体験する (模擬インタビュー)	石川智子(With U-Net) 針山摂子(With U-Net) 山添有香子(With U-Net) 鈴木由美恵 (HICE)
20	12月10日(土) 14:45~16:15	HAJAC の活用方法	針山摂子(With U-Net)
21	1月8日(日) 13:30~15:00	プロジェクトワーク 中間報告	坂本勝信 (常葉大学准教授)
22	1月8日(日) 15:00~16:30		
23	1月28日(土) 13:30~15:00	グループワーク 報告	松本三知代 (JICE 講師)
24	1月28日(土) 15:15~16:45	グループワーク 課題解決検討	松本三知代 (JICE 講師)
25	2月4日(土) 13:30~15:00	プロジェクトワーク 最終報告	坂本勝信 (常葉大学准教授)
26	2月4日(土) 15:15~16:45	グループワーク 振り返りとまとめ	嶋田和子 (一財)アクラス日本語教育研究所代表)
27	2月12日(日) 10:00~11:30	写真で語る私の歴史 鑑賞	坂本勝信 (常葉大学准教授)
28	2月18日(土) 18:30~20:00	全体のまとめと振り返り	嶋田和子 (一財)アクラス日本語教育研究所代表)

実行委員会

	日時	内容	参加者
1	7月15日(金) 14:00～17:00	講師配置 広報関係 グループワーク実習案	嶋田和子、石川智子、小野彬、白井えり子、松葉優子、HICE(内山、鈴木)
2	8月29日(月) 14:00～17:00	文化庁日本語教育大会報告 申込状況 田尻先生への依頼内容 グループワーク実習案	嶋田和子、石川智子、小野彬、白井えり子、針山摂子、松葉優子、松本三知代、HICE(内山、鈴木)
3	11月2日(水) 16:00～18:30	公開講座振り返り グループワーク実習案 プロジェクトワーク実習案	嶋田和子、石川智子、小野彬、白井えり子、針山摂子、松葉優子、松本三知代、HICE(内山、鈴木)
4	2月22日(水) 15:00～17:30	養成講座振り返り 養成講座改善検討 地域日本語教師の資質・能力確認	嶋田和子、石川智子、小野彬、針山摂子、松葉優子、松本三知代、HICE(内山、鈴木)

■取組2 U-ToCにほんご教室 第2期初中級クラス報告

日本の生活には慣れてきたが、生活の場が限られていたり、地域とのつながりもほとんどない日本人の配偶者や日系人らを対象に、初級を終えた初中級レベルの日本語教室を行い、彼らが社会参加に一步踏み出すための一押しをする教室を開催した。また、開催は浜松市外国人学習支援センターで行い、本教室を市内の日本語教育のモデルケースとするための検討を行った。

期 間 平成28年5月9日～9月12日 毎週月曜日 9:30～12:30

開催時間数(回数) 計45時間 (3時間×15回)

会 場 浜松市外国人学習支援センター

講 師 戸田幸子

受講者 12人(中国6人、韓国2人、ブラジル1人、タイ1人、イギリス1人、フィリピン1人)

期 間 平成28年10月24日～2月27日 毎週月曜日 9:30～12:30

開催時間数(回数) 計45時間 (3時間×15回)

会 場 浜松市外国人学習支援センター

講 師 戸田幸子(日本語教師)、小池啓子(講義補助者)

相談役 坂本勝信(常葉大学准教授)

受講者 19人(中国5人、インド3人、タイ3人、インドネシア2人、ペルー2人、ベトナム1人、フィリピン1人、トルコ1人、ブラジル1人)

■取組3 写真で語る私の歴史～これまでの私とこれからの私～

浜松版地域日本語教師養成講座のプロジェクトワークと連動し、受講者が外国人発表者と協働で写真

を使った自分史を作成した。自分史の発表の場をグローバルフェアのイベントとして設けることで、広く一般に外国人市民の存在や多文化共生の意義にを周知する機会とした。

日 時 平成 28 年 2 月 12 日 (日) グローバルフェア内ホールイベントとして

10:10~11:00 フォト・ストーリーテリング(8分×6人)

11:10~11:40 発表者と交流会 (2F ホール前)

※10:00~16:00 発表者写真をパネル展示 (2F ホール前)

会 場 クリエイト浜松 2F ホール

来場者 150 人

発表者 大塚 千賀代 (ブラジル)

松下 パンティパ (タイ)

岡部 デリア (ペルー)

中里 ユキエ (ブラジル)

五藤 幸来 (中国)

フジサキ アキコ アイラ (フィリピン)

■成果・課題

平成 26 年度文化庁委託「浜松市日本語教育連携推進事業」で、地域で活動する日本語教師の量と質の不足が浮き彫りになり、平成 27 年度文化庁委託「浜松版地域日本語教師育成検討事業」でその課題を解決するための検討を行った。今年度は、昨年度の検討事業でカリキュラム開発した「浜松版地域日本語教師養成講座」を実施し、地域で活動する日本語教師を増やそうと試みたが、一朝一夕に解決できることではないということが改めてわかった。日本において日本語を学習する場は、大学、日本語学校、地域、企業など様々あるが、日本語教師が日本語教師として安定して働ける環境は地域にはほとんどない。そのため、日本語教師としての資質が高く、かつ、地域で日本語教育を行う人材を確保するのは非常に難しいのが現実である。加えて、地域で日本語を学ぶ学習者のほとんどが、日本語能力を求められずに日本に定住できる在留資格を持っているため、日本語を学習する必要性を感じるかどうかは個人に委ねられている。それらの状況下で地域の日本語教育の充実を地域だけで図るには限界があり、より一層、国との連携が欠かせないことがわかった。ただ、今回の事業を通じて、国際交流協会が地域の諸団体からどう期待されているのかがよくわかったり、個の日本語教師のニーズもよく見えたりしたので、講座の結果を踏まえて改善を加えながら今後も同様の講座を実施していきたい。

3. 外国につながる次世代支援事業 (市委託：外国人学習支援センター事業)

参加者数：延べ 1,209 人 17 件 (昨年度 18 人 14 件)

① 外国人子ども学習支援ボランティア活動コーディネート (17 件)

小中学校や支援団体に日本語教師及び学習支援ボランティアを紹介

中学校 1 件、支援団体 16 件

② 外国につながる若者の学び直し教室（980人）

10代後半で親の呼び寄せにより来日した若者、外国人学校を卒業した若者、義務教育を受けていない若者や、高校等への進学がかなわなかった若者が学び直すための機会を提供する。

教室名	若者のための日本語教室 入門・初級
実施期間	平成28年5月9日～7月29日（月～金） 9:30～12:30（全60回）
受講者	16人（フィリピン10人、ペルー2人、ベトナム2人、中国1人、ブラジル1人） 延べ数846人
講師等	日本語教師 4人、バイリンガルアシスタント1人
送迎	セルビツ⇔U-ToC（往復） 11人利用
内容	まるごと入門A1りかい～まるごと初級A2りかいを使用した日本語学習 ひらがなカタカナ100%習得を目指す
その他活動	5月26日～6月3日 二者面談 6月25日（土） オイスカ専門学校文化祭ボランティア体験 7月7日（木） 流しそうめん 7月29日（水） AED訓練
課題	母国に帰りたい、そもそも勉強が好きではない、母国で中学を卒業していないなど多様な背景の若者が集まったため、日本語初級終了レベルまで達したのはごくわずかだった。また、日本語だけではなく、帽子を脱ぐ、携帯電話を使用しないなどの教室でのルールや、ゴミの分別、トイレトペーパーの使い方などの社会的なマナー、ジェスチャーやファッション感の違いによる学習者間のもめごと、喧嘩、喫煙疑惑、授業抜け出しなどの非行行為等に対する青少年教育も求められたが、日本語教師ではそれらの対応が難しいことがわかった。 教室終了後のつながりが弱かったのも課題である。

教室名	若者のための日本語教室 JLPT・漢字・作文（通称てらこや教室）
実施期間	平成28年7月4日～12月1日（月・木） 13:00～15:00（全37回）
受講者	11人（フィリピン5人、ペルー3人、中国1人、ブラジル1人、トルコ1人） 延べ数134人
講師等	日本語教師 3人、バイリンガルアシスタント1人
内容	7.8月 月-読み物・作文、木-文法、9～12月 JLPT N4、N3

課題	<p>学習者の出席率が悪くまた離脱者も多かった。要因として、日本語が少し話せる若者にとって、週2回午後の教室はスケジュールやニーズがあわなかったと考えられる。その他、送迎がなかったのも要因の一つか。</p> <p>夏の期間だけ、海外在住子女と不就学の生徒が教室に通った。特に、不就学生徒の居場所になったことは意義深く、このようなセーフティネットは社会に一つでも多いほうが良いと実感した。</p>
----	---

③ 外国につながる青少年のキャリア支援（229人）

■関係諸機関とのネットワーク会議

日時 5月11日（水）10:00～12:00

会場 浜松市多文化共生センター

参加団体 静岡県立新居高等学校、静岡県立浜名高等学校、静岡県立浜松大平台高等学校

静岡県立浜松北高等学校、静岡県立浜松工業高等学校

外国人学校イーエーエス伯人学校、外国人学校ムンド・デ・アレグリア学校

ハローワーク浜松、一般財団法人日本国際協力センター

特定非営利活動法人フィリピンナガイサ 他オブザーバー含め参加者20人

■学齢期を過ぎた外国人青少年の実態調査

調査期間 平成28年7～9月

調査対象 市内在住及び市内教育機関等に在籍する外国人青少年（15～19歳）

回答数 135人（※対象外年齢2人含む）

調査方法 集合調査法によりアンケート調査（定量調査）

調査結果 【類型化】南米系とフィリピン系、第二世代と新規・再来日グループの4類型

（概要） 【進路志向】日本で学び続け、安定した職に就くことを希望

【家庭的背景】親の平均象は「日本語の読み書きが不得手で製造業に従事し共働き」経済的状況が苦しい家庭も多く、高校卒業後の進学は学費の心配がある。

【課題】日本での安定就労に向けた具体的な進路（進学・就職）を知らせ、経済的問題への対応策（奨学金等）を提示する必要がある。そのためには、外国にルーツを持つ若者グループ「COLORS」などによる先輩との交流が効果的だと思われる。また、就職・進学の情報提供とともに日本語指導を充実できるよう財政的・人的支援が必要。進路選択については「親からの勧め」が重要であるため、親向けの進路情報・奨学金情報のガイダンスの開催や外国にルーツを持つ高校生を対象とした進路相談会の開催も検討していく。また、南米系もフィリピン系も「新規・再来日者」が増えているので、彼らへの日本語学習機会の提供も引き続き行う必要がある。

■外国につながる青少年のキャリア支援を考える集い

日 時 12月17日(土) 13:30~16:30

会 場 浜松市外国人学習支援セミナー

参加者 74人

内 容 第1部 基調講演「外国人青少年を取り巻く状況」

講師：高畑幸（静岡県立大学准教授）

第2部 事業報告

「学齢期を過ぎた外国人青少年の実態調査」

(公財) 浜松国際交流協会 事務局長 竹村吉弘

「外国にルーツを持つ高等学校在籍者へのキャリア支援研修」

(公財) 浜松国際交流協会 松岡真理恵

第3部 | パネルディスカッション「外国人青少年が地域社会で活躍していくために」

パネリスト 小島祥美（愛知淑徳大学文学部准教授）

伊藤忍（静岡県立浜松大平台高等学校定時制教頭）

松本義一（NPO 法人フィリピンナガイサ副理事長）

鈴木里江子（ハローワーク浜松外国人労働者専門官）

内山夕輝（(公財) 浜松国際交流協会）

コーディネーター 高畑幸（静岡県立大学准教授）

■定時制高校へのロールモデルによる出前授業（出張 COLORS）

趣 旨 外国にルーツを持つ若者グループ「COLORS」が、外国にルーツを持つ高校生に将来について考えてもらうことを目的としたワークショップを行う。支援活動を通して彼ら自身の成長にもつなげる。

日 時 県立浜名高校定時制（5月27日、6月24日、11月25日、12月16日）19:00~21:00

県立磐田南高校定時制（5月23日、7月11日、11月28日、2月13日）19:00~21:00

会 場 静岡県立浜名高校、静岡県立磐田南高校

対 象 浜名高校定時制、磐田南高校定時制に通う外国にルーツを持つ生徒

参加者 延べ218人

内 容 第1回：自己紹介ゲーム、世界の料理クイズ、カードに書かれたテーマで自由トーク

第2回：自己紹介ゲーム、COLORS メンバーのライフヒストリー紹介、メンバーと座談会

第3回：自己紹介ゲーム、価値観を知るカードソート、日本にある職業探し

第4回：アイスブレイク、グループ対抗長所出しゲーム、将来の目標達成のためのプラン

成 果 2年連続で参加した高校生や COLORS メンバーと SNS 上でつながった高校生もおり、気軽に相談できる関係を築くことができたようだ。COLORS メンバーにとっては、市内小中学校や全国各地から講演依頼が舞い込むなど、日本社会での活躍の機会が増えた。関係者の見学も多く、この事業を希望する高校が増え、来年度からは3校で実施することとなった。

■外国につながる若者による若者のための就職セミナー

日 時 10月7日(金) 13:30~15:30

会 場 大平台高校

内 容 ・外国にルーツを持つ若者の就職体験談(先輩からの話)

・企業紹介

・個別相談・座談会

参加者 外国にルーツを持つ高校1年生~3年生 18名(大平台ブラジル15、浜名フィリピン3)
教員等 8名

成 果 先輩の話は内容が濃く、参考になったと思われる。企業の話では、アルバイトと正社員の違いなどを分かりやすく話してもらうことができた。参加者が全体的に少なかったが、高校と企業、HICEと連携ができた初めての企画で、来年度以降につなげていく。

■成果と課題

外国にルーツを持つ高校生以上の若者への支援はこれまで手薄であったため、まずは教育委員会、高校、外国人学校、企業、NPO、その他関係機関が問題意識を共有したことが一番の成果である。調査により現状と課題も確認されたので、次年度以降も引き続き関係機関のネットワークを保ちながら、個々の課題について関係機関とともに取り組んでいく仕組みをつくることが求められる。

④ 外国人の子どもの不就学ゼロ作戦

外国籍の就学年齢の子どもで不就学が確認された者につき、訪問等で実際の状況を確認し、状況に応じて何らかの教育環境につなげる。

■就学状況の把握

調査内容

調査項目	回数	対象
新小学校1年生	1回(年度始め)	4月に小学校1年生相当の年齢になる外国人の子ども
転入者	6回	新たに浜松市に転入してきた外国人の子ども
退学者	6回	公立小学校、外国人学校等を退学した外国人の子ども

推定不就学者数

調査項目	調査対象者	就学や転出が確認された者	推定不就学者
新小学校1年生	36人	13人	23人
転入者	61人	18人	43人
退学者	95人	34人	61人
合 計	192人	65人	127人

■推定不就学者の訪問調査結果

項目			内訳	
推定不 就学者 (127人)	浜松市に居住 (72人)	就学 (54人) 支援・継続調査により 就学が確認できた者	公立小学校	6人
			公立中学校	5人
			私立中学校	0人
			市内の認可外国人学校 *1	37人
			市外の認可外国人学校	6人
	実質不就学 (15人)	学習支援教室等に在籍	12人	
		学習支援教室等にも在籍なし	3人	
	就学予定(3人)*2	ガイダンス・手続き済みの者	3人	
		居住実態なし (55人)	転居・居住実態なし	27人
	訪問等の調査により、転居・帰国が確認できた者	帰国	28人	
合計			127人	

■平成28年度に不就学が確認された者の平成29年3月31日現在の状況

項目			内訳	
調 査 に よ り 不 就 学 が 確 認 さ れ た 者 (15人)	浜松市に居住 (13人)	就学 (6人) 支援・継続調査により 就学が確認できた者	公立小学校	1人
			公立中学校	0人
			私立中学校	0人
			市内の認可外国人学校 *1	5人
			市外の認可外国人学校	0人
	実質不就学 (6人)	学習支援教室等に在籍	4人	
		学習支援教室等にも在籍なし	2人	
	就学予定(1人)*2	ガイダンス・手続き済みの者	1人	
		居住実態なし (2人)	転居・居住実態なし	2人
	訪問等の調査により、転居・帰国が確認できた者	帰国	0人	
合計			15人	

*1) 本国政府による認可 *2) 教育委員会、学校、学習支援教室等と家庭の相談で4月入学を選択し、準備を済ませている者

■実質不就学者の内訳

項目		内訳	
実質不 就学者 (6人)	学習支援教室等に在籍あり (4人)	本国政府認可外の学習施設に通っている	2人
		就学支援教室等に通っている	2人
	学習支援教室等にも在籍なし (2人)	学校や支援教室に通っておらず、帰国予定もない	0人
		就学予定あり	2人
		転出 (国内・国外) 予定 (1ヶ月未満)	0人
		転出 (国内・国外) 予定 (1ヶ月以上先)	0人
合計		6人	

不就学者への支援

- ・不就学判明後の状況確認、面談

(発達障がいや、虐待が疑われるケースなどの困難事例では、関係機関へ相談、または関係者で集まり今後の支援について話し合う場を設けた)

■不就学者(全体)の現在の状況 (平成 29 年 3 月 31 日現在)

*平成 27 年度末に不就学だった 7 人を含む

項目		内訳	
実質 不就学者 (15)	学習支援教室等に在籍あり (10)	本国政府認可外の学習施設に通っている	4 人
		就学支援教室等に通っている	6 人
	学習支援教室等にも在籍なし (5)	学校や支援教室に通っておらず、帰国予定もない	2 人
		就学予定あり	2 人
		転出 (国内・国外) 予定 (1 ヶ月未満)	1 人
		転出 (国内・国外) 予定 (1 ヶ月以上先)	0 人
合計		15 人	

4. 地域共生事業 (市委託：多文化共生センター事業)

参加者数：延べ 43 人 10 件 (昨年度 57 人 14 件)

① 各地域への個別支援 (10 件)

地域名	内容
上島自治会	ブラジル人クラブとブラジル人教会の騒音問題について
県営浜北団地	・平成 27 年度決算報告のタガログ語、英語翻訳について ・平成 28 年度予算をタガログ語へ翻訳
浜北区高畑雇用促進住宅	自治会則の英語、ポルトガル語への翻訳
篠原東自治会	スペイン語で自治会費や役割について説明したい。
鷺の宮団地自治会	ごみ集積所の掃除の説明をポルトガル語・英語に翻訳
坪井町自治会	ゴミ出しルールについてスペイン語と中国語での案内表示の翻訳
篠原東自治会	ポルトガル語・スペイン語の「重要」マークシール作成の支援
遠州浜県営住宅	第二駐車場の電気代の支払案内をポルトガル語に翻訳
鷺の宮団地自治会	住民に注意喚起を促す手紙をポルトガル語・英語に翻訳
県営浜北自治会	来年度の体制について相談・報告

② 地域共生自治会会議 (43 人)

■「公営住宅における外国人住民への対応について」

日 時 7 月 30 日 (土) 13:30~16:30

会 場 多文化共生センター

内 容 【第1部】講義「公営住宅における外奥人住民への対応について」

講師：愛知県営住宅自治会連絡協議会会長 川部國弘

【第2部】情報交換・意見交換

参加者 11自治会13人、関係者6人

オブザーバー：浜松市、静岡県等関係機関、県議員、市議会議員11人 合計30人

成 果 ・県営住宅などの公営住宅の課題について、住民側だけでなく管理者側とも共有できた。
・浜松市自治会連合会としても関心を持ってもらった。

■「公営住宅における外国人との共生の課題を考える」

日 時 2月17日（金）10：00～12：00

会 場 多文化共生センター

内 容 1) 公営住宅における外国人住民の入居状況について

2) 自治会支援制度について

3) 意見交換

参加者 浜松市住宅課、浜松市営住宅北部管理センター、浜松市営住宅管理センター

静岡県住宅課、静岡県浜松土木事務所、静岡住宅供給公社

静岡県多文化共生課、浜松市国際課、浜松国際交流協会 9団体13人

成 果 7月に行った地域共生自治会会議も踏まえて、浜松市、静岡県の公営住宅の担当部署の担当者と今後のことを考える話し合いとなった。公営住宅では外国人住民との共生だけでなく、高齢者や母子家庭など社会的弱者の方々との共生も課題になっているため、コミュニティ運営を円滑にするための工夫が求められる。それをどのように管理者側やHICEのような組織が支援できるのか、関係者どうして率直な意見交換ができた。

5. 多文化防災事業（市委託：多文化共生センター事業）

参加者数：76人10件（昨年度131人13件）

① 災害時多言語支援センター設置訓練

- ・市防災訓練と連携して連絡訓練を実施

日 時 9月1日（木）

参加者 8人

- ・災害時多言語支援センター設置運営訓練

日 時 10月30日（日）13：00～17：00

会 場 多文化共生センター

参加者 46人（HICE職員17、国際課職員7、多言語ボランティア14、その他8）

内 容 ・浜松市の災害時体制について（浜松市危機管理課より）

- ・熊本での災害時多言語支援センターの経験より学ぶ

講師：筒井美幸（三重県国際交流財団）

- ・災害時多言語支援センターの設置運営訓練

ファシリテーター：加山勤子（静岡県国際交流協会）

- ・避難所で想定される相談への対応について検討
- 成 果 HICE 職員と国際課職員、多言語ボランティアが一同に介してセンターの運営について具体的なイメージを持つことができた。
- 課 題 浜松市は広すぎて避難所巡回等に全て対応することはできない、翻訳については事前に準備しておけることが多くある、多言語ボランティアに効果的に活躍してもらうために役割を明確にするべき、実際に即したマニュアルに改正すべきなど多くの課題が確認できた。次年度以降はひとつずつ、課題に対応した上で、災害時多言語支援センター設置訓練を継続していく。

② モデル地区を設定した多文化防災訓練の実施

- ・中央地区における災害時多言語支援センター立ち上げ訓練（遠州病院及び中央地区自治会と協働開催）
 - 日 時 12月10日（土）遠州病院の災害時訓練と連携して開催
 - 会 場 遠州病院、アクト通り
 - 内 容 遠州病院の災害時訓練に合同参加。外国人被災者役を送り込み、通訳を派遣するシミュレーションを行った。
 - 参加者 4人（多言語ボランティア）
- ・芳川団地 防災啓発事業
 - 日 時 11月27日（日）
 - 会 場 芳川団地 集会所
 - 内 容 災害時多言語支援センター・アプリの紹介など
 - 参加者 18人（ブラジル人、日本人）

③ 災害時に備えたネットワークの強化（連絡会議の開催）

- ・10月30日 「災害時多言語支援センター立ち上げ訓練」と同時開催
- ・12月10日 「遠州病院の災害時訓練」と同時開催

④ 災害・防災情報の提供（10件）

Facebook で災害情報を多言語で発信

災害注意情報 0回（台風注意報、大雨による避難勧告等）

災害関連情報 10回

(リーチ数)

月日	内容	日本語	ポルトガル語	英語
4/20	熊本地震における外国人支援状況についての情報提供	544		
4/21	在東京ブラジル総領事館からの案内「地震に備えよう」		408	
4/26	災害時多言語支援センターについて	863		

7/8	水難事故に注意	377	743	106
8/15	水難事故にご注意を！		326	
9/1	災害時外国語表示・やさしい日本語シート集	1243		
11/27	全国瞬時警報システム(Jアラート)の情報伝達訓練について		288	
12/7	不発弾の処理について	348	453	
12/17	発弾処理の実施について		337	
3/11	震発生と大津波警報のサイレンを吹鳴します(訓練)		236	

6 多様性を生かしたまちづくり事業（市委託：多文化共生センター事業）

参加者数：延べ 345 人 42 件（昨年度 214 人 56 件）

① はままつ多文化共生 MONTH(月間)事業コーディネート

15 事業（新規 6 事業・団体）

- ・MONTH チラシを、昨年同様多文化共生について関心を持ってもらうためのきっかけをつくる内容とした。また、より気軽に読んでもらうよう、フィリピンのスイーツのレシピを紹介した。
- ・「びぶれ」9 月 8 日号に特集記事掲載。

浜松在住外国人による母国の家庭料理講座の様子を取り上げ、「びぶれ」読者層である主婦層に焦点を当てた内容とした。

成果 昨年度より、多文化共生関連の事業を喚起するというより、市民に多文化共生に関心を持ってもらうことを主眼に広報を行っている。びぶれ読者からの反響として、「浜松に 80 カ国の方がいるなんて知らなかった」「異国（日本）で生活する外国人の立場に立ってみるのは本当に大事」「挨拶などはするけれどももっと歩みよりたい」などの反応があり、イベント広報以外の読み物としての効果があったことを確認している。

② 文化・スポーツ紹介

Facebook により浜松市内の主要な文化・スポーツイベント等についての情報を多言語で提供。

発信回数 27 回

③ 地域活性化事業（286 人）

■外国人留学生と企業の交流会

日時 2 月 13 日（月）13：30～16：30

会場 静岡大学浜松キャンパス

参加者 35 人（留学生 15 人、企業 15 人、その他 5 人）

内容 1) 企業説明

2) 留学生からの共通質問

3) 個別質問

成 果 JETRO 経由で商工会議所青年部に呼びかけたところ、3 社が名乗りを上げた。中小企業は国籍問わず優秀な人材を欲していることが良く分かった。留学生も大都市圏や大企業のみでなく、中小企業でも自分の能力を活かせる企業があると知る機会となった。

■外国につながる若者による若者のための就職セミナー（再掲）

日 時 10月7日（金）13：30～15：30

会 場 大平台高校

内 容 外国にルーツを持つ若者の就職体験談、企業紹介、個別相談・座談会

参加者 43人（外国につながる高校1年生～3年生 18名
企業 4社8人 先輩 2人 その他支援者等 15人）

■外国につながる若者のための就活ワークショップ&キャリアカウンセリング

日 時 1月25日（水）18：30～20：00

会 場 多文化共生センター

講 師 清水位知子（オフィスキャリアルート）

内 容 ・これからの時代に必要とされる能力について
・自分の長所・短所を知り、向いている仕事を知る

参加者 15人

成 果 これから就職活動を行う学生もいたので、改めて自分の特性を考える機会となった。外国にルーツを持つ若者グループ「COLORS」をはじめ、中国にルーツのある大学院生や浜松学院大学のブラジルルーツの学生も参加。交流もできた。

■定時制高校へのロールモデルによる出前授業（出張 COLORS）（再掲）

趣 旨 外国にルーツを持つ若者グループ「COLORS」が、外国にルーツを持つ高校生に将来について考えてもらうことを目的としたワークショップを行う。支援活動を通して彼ら自身の成長にもつなげる。

日 時 県立浜名高校定時制（5月27日、6月24日、11月25日、12月16日）19：00～21：00

県立磐田南高校定時制（5月23日、7月11日、11月28日、2月13日）19：00～21：00

会 場 静岡県立浜名高校、静岡県立磐田南高校

対 象 浜名高校定時制、磐田南高校定時制に通う外国にルーツを持つ生徒

参加者 延べ252人

内 容 第1回：自己紹介ゲーム、世界の料理クイズ、カードに書かれたテーマで自由トーク

第2回：自己紹介ゲーム、COLORSメンバーのライフストーリー紹介、メンバーと座談会

第3回：自己紹介ゲーム、価値観を知るカードソート、日本にある職業探し

第4回：アイスブレイク、グループ対抗長所出しゲーム、将来の目標達成のためのプラン

グローバル感覚に優れた人づくり

1. グローバル人材の育成と活用 参加者数：延べ8,072人（昨年度11,868人）

① 地球人教育出前講座及びコーディネート

（市委託：多文化共生センター事業）（1,287人）

■学校への派遣（6校）

学校名	派遣人数	対象/参加者
浜松学院中学校	3人	中学生20人
新津小学校	1人	小学生126人
南の星小学校	1人	小学生77人
江南中学校	2人	中学生40人
浜松市立高校インター ナショナルクラス	1人	高校生10人
瑞穂小学校	1人	小学生5,6年生 25人
合計	9人	298人

■協働センター等への派遣・コーディネート（8ヶ所）

派遣先名	派遣人数	対象/参加者
浜松市立看護専門学校	延べ10人	看護学生延べ420人
浜松医科大学	1人	大学院生6人
The Culture Factor	1人	100人
長上協働センター	1人	24人
浜松東ロータリー クラブ	1人	50人
静岡文化芸術大学	1人	140人
青少年の家	1人	20人
GiFT	1人	外国人・日本人中高校生 10人
合計	17人	770人

■学校等からの訪問（25団体）

訪問団体	日数	参加者
静岡大学	1日	21人
浜松商工会議所	2日	3人
海外日系人協会	1日	68人
アメリカ・シモンズ大学	21日	1人
広島大学	1日	1人
厚生労働省	1日	5人

カリフォルニア大学	1日	12人
静岡県議会議員	1日	14人
静岡大学附属浜松中学校	1日	2人
浜松市立天竜中学校	1日	1人
グローバル教育推進 プロジェクトメンバー	1日	5人
静岡文化芸術大学	1日	2人
静岡県立掛川東高校	1日	1人
フィリピン・スカラブリニ 移民研究所	1日	7人
立命館大学	1日	1人
大阪大学	1日	1人
東北大学	1日	1人
浜松市立開成中学校	2日	2人
浜松学芸高校	1日	1人
一橋大学	1日	5人
香川県政策部自治振興課	1日	2人
参議院第二特別調査室	1日	3人
静岡文化芸術大学	1日	26人
フォーラム21	1日	7人
静岡文化芸術大学	1日	1人
合計	47日	193人

② 国際理解教育講座（自主事業、市委託：多文化共生センター事業）（201人）

■ 「コーヒーハンター川島良彰から聞く～世界を幸せにするコーヒー」

日 時 9月25日（日）13：30～16：00

会 場 多文化共生センター

講 師 川島良彰（㈱ミカフェート代表取締役社長、日本サステイナブルコーヒー協会理事長）

参加者：98人

■ 「国際理解教育ファシリテーター養成リレー講座」

	日時	内容	講師	参加者
1	10月2日（日） 13:00～17:00	世界を知り、考えるためのアク ティブ・ラーニング	はままつ国際理解教育 ネット	35人
2	10月22日（日） 13:00～17:00	国際理解教育に活かすコーチ ング	久米昭洋（常葉大学大 学院初等教育高度実践 研究科准教授）	25人

3	11月13日(日) 13:00~17:00	浜松から「世界」を発見 ～まち歩き付き～	はままつ国際理解教育 ネット	23人
4	12月4日(日) 10:00~17:00	あなたも今日から国際理解教 育ファシリテーター	はままつ国際理解教育 ネット	20人

③ 第7回はままつグローバルフェア（自主事業）（約5,300人）

目的 ・広く市民（特に次世代を担う子ども・若者）に呼び掛け、国際交流に参加するはじめての
一歩の機会とし、文化を通じた多文化共生の社会づくりにつなげる。外国人と日本人同
士の交流の場を提供し、気軽に多くの方に参加してもらう機会とする。

・浜松市内で国際理解や多文化共生、国際協力に関わっている団体や個人に企画者として
参加してもらうことで、団体間の協力関係を構築する。より多くのアマチュアの市民
グループに発表の機会を提供し、ダンス・音楽などのステージに参加してもらう。

・国際理解教育ファシリテーター養成リレー講座の成果を発表する機会とする。

日時 2月12日(日) 10:00～17:00

会場 クリエイト浜松

参加者 一般市民 約5300人

主催 公益財団法人浜松国際交流協会、はままつ国際理解教育ネット、独立行政法人国際協力
機構中部国際センター(JICA 中部)、公益財団法人浜松市文化振興財団(クリエート浜松)

後援 浜松市、静岡新聞社・静岡放送、中日新聞東海本社、NHK静岡放送局浜松支局、FM Haro!、
K-mix、浜松商工会議所

内容

1階			
会場	ブース名	担当	内容
ふれあい広場	アートマイル	JICA	浜松学院中、藤枝北高
	ワールドマーケット	HICE	海外の雑貨などの販売、フェアトレードコーナー
	パネル展示	HICE	国際交流団体、浜松市上下水道部など
創造活動室	ワールドステージ	HICE	世界のダンス・歌の発表（ペルー、中国、フィリピン、 ブラジル、ペルー、日本の童謡、阿波踊り）
外：中庭	世界の料理	HICE	世界の料理の販売（トルコ、ブラジル、ペルー、フィ リピン、ベトナム、タイ、カナダ、インドネシア）
2階			
ホール	写真で語る私の歴史	U-ToC	10：10-11：40 在住外国人によるフォトストーリーテリング
	講演	JICA	13：00-14：00 たかまつなな（お嬢様ネタをするお笑い芸人）
	クロスロード上映	JICA	14：15-16：00 JICA・OB会の協力で、協力隊をテーマにした映画を 上映

ホール前	写真 展示	U-ToC	登壇者の紹介パネルを展示
21 講座室	国際理解 WS	はま国	フェアトレードストラップ作り、国際理解教育ワークショップ
22 講座室	民族衣装体験	JICA	JICA の OB の協力による各国の民族衣装体験
アトリエ	巨大積み木	オイスカ	間伐材をつかった積み木で巨大なオブジェをつくる
4 階			
HICE 事務局	本部・総合案内所	HICE	総合案内所、スタンプラリー
多文化共生センター前	パネル展示	HICE	HICE 関係 パネル展示
多文化共生センター(A,B)	控え室、リハ	HICE	ワールドステージ出演団体控え室
特別会議室	控え室	HICE	ボランティアスタッフ控え室
5 階			
51 会議室	世界のゲーム体験	フレクティブ	英語で世界の卓上ゲーム体験
52 会議室	Joining Hands Project	浜松学芸中学・高等学校	A 5 サイズ程度の厚紙に似顔絵などを来場者に描いてもらい、それをつなげて掲示する
53 会議室	書道体験 英語で観光紹介	市観光 CP 課、龍潭寺	イスラエル人から学ぶ書道体験 英語で、井伊直虎や浜松の観光の紹介
54 会議室	和菓子体験	HICE	11:00～、13:00～、15:00～ 和菓子づくり体験 (ねりきり)
スタジオ	リハ室		ワールドステージ リハ室
和室	着付け、生け花	ゆめはな	11:00～15:00 いけばな、着付け体験

④ 多文化体験・交流事業（市委託：外国人学習支援センター事業）（1,284 人）

学習支援センターにおいて、日本文化を含む様々な国の文化を体験するような講座を実施。年に3回、交流イベントも行った。

■多文化体験

	月日	内容	講師	参加者
1	4月4日	春を楽しもう	おしゃべりタイム	51人
2	7月7日	流しそうめん	おしゃべりタイム	66人
3	8月26日	こども夏祭り	NPO 法人ころころねっと浜松、中央図書館、子育て支援課、ネリ・リカルド(ブラジル人画家)	80人

4	9月12日	ほんと！？日本との違い ～日本と外国の文化や習慣を みんなに教えます～	・発表者：ピン、シ、ユイナ、リュ ウ、ソウ・受付：シャオ（初中級ク ラス学習者） 戸田幸子、小池啓子（初中級日本語 教師）	41人
5	11月26日	「ブラジル・日本・ドイツ」の 多文化体験でわかったこと～ コミュニケーションと寛容の 大切さ～	中島ダニエリ（U-ToC イン ターン）	25人
6	2月17日	ひなまつりに作ってみよう！ ～ちらし寿司のカップケーキ	おしゃべりタイム	21人
			合計	284人

■多文化イベント

	第1回	第2回
テーマ	フェスタジュニーナ （ブラジルの収穫祭）	文化祭
開催日	6月19日（日）	11月26日（日）
会場	外国人学習支援センター	外国人学習支援センター
協力	セメンチ パラ オ フトゥーロ	
参加者	200人	800人
	合計	1,000人

2. 国際交流・理解のための外国語講座 参加者数：延べ1,555人（昨年度1,208人）

①国際交流のための外国語講座（自主事業）（209人） 会場：多文化共生センター

■国際交流のためのタイ語講座：初級 延べ300人

講師	キッパームチャルーン・チュダー		
日程	火曜日 19:00～20:30		
第2期	10月4日～12月20日（全12回）	15人	受講者 合計30人
第3期	2月1日～3月28日（全8回）	15人	

■国際交流のための英語講座：中級（全12回） 延べ720人

講師	第1期 ダビッド・マーテル（火）、第2期 ダビッド・マーテル（火） 第1期 ダビッド・マーテル（水）第2期 ダビッド・マーテル（水）		
日程	火曜日 10:00～11:30、水曜日 10:00～11:30		
第1期	5月10日～7月26日（火）	15人	

	5月11日～7月27日(水)	15人	受講者 合計60人
第2期	10月4日～12月20日(火)	15人	
	9月28日～12月21日(木)	15人	

■国際交流のための英語講座：上級（全12回） 延べ348人

講師	第1期 ダビッド・マーテル(木) 第2期 サンチャゴ・コルテス(木)		
日程	木曜日 19:00～20:30		
第1期	5月12日～7月28日	15人	受講者 合計29人
第2期	9月29日～12月22日	14人	

■国際交流のためのフランス語講座：初級（全12回） 延べ216人

講師	クニオ・パスカル		
日程	火曜日 19:00～20:30		
第1期	5月10日～7月29日	8人	受講者 合計18人
第2期	10月4日～12月20日	10人	

■国際交流のためのベトナム語講座：初級（全12回） 延べ372人

講師	ブ・トウイ・アン		
日程	水曜日 19:00～20:30		
第1期	5月11日～7月27日	16人	受講者 合計31人
第2期	9月28日～12月21日	15人	

■国際交流のためのロシア語講座：初級 延べ144人

講師	ブレンコワ・アルビナ		
日程	木曜日 19:00～20:30		
第2期	5月12日～6月30日(全8回)	6人	受講者 合計14人
第1期	9月29日～12月22日(全12回)	8人	

■国際交流のためのスペイン語講座：初級（全12回） 延べ228人

講師	野国マリエラ		
日程	金曜日 19:00～20:30		
第1期	5月13日～7月29日	11人	受講者 合計19人
第2期	9月30日～12月16日	8人	

■国際交流のためのポルトガル語講座：初級（全12回） 延べ96人

講師	柳澤クリスティーナ		
----	-----------	--	--

日程	金曜日 19:00~20:30		
第2期	9月30日~12月16日	8人	受講者 合計8人

②国際交流のための外国語サロン（自主事業）（214人） 会場：多文化共生センター

■英語を通じて世界を知ろう！「世界のE-文化」(181人)

時間 13:30~15:30

日時	講師	参加者
4月17日(日)	メルセディタ・ノブレ(フィリピン)	13人
5月15日(日)	ダビッド・マーテル(カナダ)	18人
6月19日(日)	マイケル・サリバン(アメリカ)	18人
7月10日(日)	アミン・アルタビチ(ポーランド・シリア)	20人
8月28日(日)	ロサリネ・カホ(トンガ)	12人
9月11日(日)	エルダ・チャン(ニュージーランド)	19人
10月16日(日)	ユーリー・パンテレエフ(ロシア)	14人
11月20日(日)	ケイティ・エバンス(イギリス)	17人
12月11日(日)	バングラデシュ(タリク・ハサン)	11人
3月15日(日)	インド(イブラヒム・カリール・モハメド・マタール・サヒブ)	13人
2月19日(日)	ウィサニ・シバンブ(南アフリカ)	16人
3月12日(日)	ライス・カワアタ(ブラジル)	10人
合計		181人

■英文小説を読んで英語を学ぼう！：全6回／上級以上(TOEIC700点以上) 延べ120人

講師	マーカス・スプリングー		
内容	英語の短編を読み、アメリカ人講師と英語で話し合います。		
時間	19:00~20:00		
第1期	5月11日~7月27日(第2・4水曜日)	10人	受講者 合計20人
第2期	10月5日~12月21日(第1・3水曜日)	10人	

■ブラッシュアップ・ポルトガル語講座(中級・上級) 全5回 延べ65人

講師	サノ・ヒトミ(レヴィスタ・ボア・ディカ)		
内容	ブラジル社会に関する雑誌やテキスト記事を読みながら、実践的なポルトガル語を学ぶ。(全5回) 第1回5月28日(土) 「なぜ、ポルトガル語の勉強をするの？」 第2回6月11日(土) 日常生活でよく使う様々な意味を持つ単語を使うこなそう。 第3回6月25日(土) ふるまい家族のテーマを使って文法と動詞を学ぶ		

	第4回 7月9日(土) ブラジルにおける日系移民の影響記事をとおして読解を学ぶ 第5回 7月23日(土) テキスト読解と交流会	
日時	5月28日～23月7日 10:00～11:30 土曜日	受講者 合計 13人
受講者	13人	

④ 外国人支援者のためのポルトガル語講座

(市委託：外国人学習支援センター事業) (499人)

会場 外国人学習支援センター

協力団体 Semente para o Futuro (将来のためのたね)

基礎～初級レベルのポルトガル語会話とブラジル文化を学ぶ

	日程	参加者
1期	5月24日～7月26日 (11回) 19:00～20:30 火曜・入門コース	167人
2期	8月30日～11月8日 (11回) 19:00～20:30 火曜・入門コース	187人
3期	12月13日～2月28日 (11回) 19:00～20:30 火曜・初級コース	145人
合計		499人

3. 国際交流・理解のためのイベント (自主事業)

参加者数：延べ 783 人 (昨年度 959 人)

① ウェルカム・イベント (39人)

日時 4月24日(日)10:00～15:30

会場 クリエイト浜松クッキングルーム、多文化共生センター、

内容 【午前】多言語 de 世界のクッキング体験～英語でルーマニア料理～

講師：バドゥバ・マリアナ (ルーマニア人)

【午後】JICA ボランティア体験談～ブラジル学校教育編～

講師：亀久保裕之 (元 JICA 日系社会青年ボランティア隊員)

参加者 39人 (午前 26人：多言語 de クッキングで計上)

②親子で English (186人)

日本人・フィリピン人の3歳から6歳までの子ども連れの親子が歌やゲームを通して楽しく英語に親しみながら参加者どうしの交流も行った。

日時	5月29日	6月19日	7月10日	9月25日	10月23日	11月27日
	日曜日 10:00～12:00					
会場	多文化共生センター					
講師	Filipinos English Teachers in Japan (FETJ)					

参加者	14組 34人	16組 35人	11組 24人	14組 31人	14組 30人	12組 32人
合計						81組 186人

③多言語 de 世界のクッキング体験 (306人)

英語やその他の言語に触れながら、浜松在住外国人の講師からその国の家庭料理を学び、交流した。

共催 NPO法人 FRECTiVE

時間 10:00～12:30

会場 クリエイト浜松クッキングルーム

月日	内容	参加者
4月24日(日)	英語でルーマニア料理	33人
5月21日(土)	英語でトンガ料理	26人
6月18日(土)	英語でトリニダード・トバゴ料理	32人
7月31日(日)	フランス語でフランス料理	33人
8月28日(日)	英語とハンガリー語でハンガリー料理	35人
9月18日(日)	英語と台湾語で台湾料理	36人
10月15日(土)	英語とタイ語でタイ料理	34人
11月19日(土)	英語とロシア語でロシア料理	27人
1月22日(日)	中国語で中国料理	24人
3月18日(土)	チュニジア、タイ、中国、ネパール、台湾、トリニダード・トバゴ料理	26人
合計		306人

④第6回ポルトガル語スピーチコンテスト (117人)

日時 11月6日(日) 13:00～18:00

会場 浜松市多文化共生センター

テーマ ブラジルと日本、2つの文化を知るメリット

出場者 第1部門：(18歳以上のラテン系の4言語(ポルトガル語、スペイン語、フランス語、イタリア語)を母語としない方) 10人

第2部門：(8歳～14歳の母語がポルトガル語もしくはラテン系の言語の方) 10人

第3部門：(15歳以上の母語がポルトガル語もしくはラテン系の言語の方) 10人

参加者 117人

共催 在浜松ブラジル総領事館

⑤オリンピックの前に知っておきたい～世界の文化の集まる国・ブラジルセミナー

日時 7月17日(日) 14:00～16:00 (56人)

会場 浜松多文化共生センター

内容 前半：在浜松ブラジル総領事ジョゼ・アントニオ・ゴメス・ピラスよりオリンピック

情報 (パワーポイント資料参考)

後半：ブラジル日本交流協会 (ANBI) のプログラムについての説明後、ブラジル 生活を経験した大学生 2 名より、生活の状況や滞在地域について発表。

・平松佑佳子 (ブラジル日本交流協会 ANBI)

・鈴木貫司 常葉大学在学中

(ブラジル リオグランデ・ド・スル カシアス・ド・スル大学で研修)

・田中ちなみ 静岡県立大学在学中

(ブラジル サンパウロ HIS (旅行会社で研修)

その他：ブラジルのチーズパン (ポン・デ・ケージョ) などを試食

(提供：Nino's (ニノス) Pan(パン))

参加者 56 人

主 催 ブラジル日本交流協会 (ANBI)

公益財団法人浜松国際交流協会 (HICE)

後 援 在浜松ブラジル総領事館

⑥ラテンフィットネス・マリネラダンス体験講座 (延べ 72 人)

日 時 7 月 8 日 15 日 22 日 29 日 (金) 19:00~21:00 (全 4 回)

会 場 クリエイト浜松 1 階 (創造活動室)

内 容 ペルーの国民的舞踊「マリネラ」をペルー人講師から学んだ

講 師 クラウディア・ゴンザレス・ヴィーゴ

参加者 18 人

共 催 浜松市中部協働センター

⑦「THE TRUTH 伝えきれなかった真実 2016」上映会・久保田弘信講演会 (100 人)

日 時 1 月 29 日 (日) 10:00~13:00

会 場 浜松市多文化共生センター

講 師 久保田弘信 (フォトジャーナリスト)

内 容 アフガニスタン、イラク、シリア難民を 15 年間取材した記録映画の上映及び講演会

参加者 100 人

共 催 World Fact Filmist Hamamatsu (フィルハマ)、青年海外協力隊静岡県 OB 会
クリエート浜松イベント事業実行委員会

4. 担い手の育成：ボランティア活動支援事業（自主事業）

参加者数：延べ 2,105 人（昨年度 1,606 人）

① HICE ボランティアバンクの運営（1,966 人）

通訳・翻訳、日本語教育、ホームステイ、イベント、出前講師に関する市民ボランティアの活動を推進した。

ボランティアバンク名	登録者数
出前講師ボランティア	155 人
通訳・翻訳ボランティア	361 人
日本語教師ボランティア	329 人
ホームステイボランティア	216 人
情報提供ボランティア	174 人
イベントボランティア	731 人
合計	延べ 1,966 人

②ホームステイ・コーディネート（124 人）

■インドネシア・サリスナ財団「日本語学習体験プログラム」をコーディネート

依頼者 静岡大学グローバル企画推進室
 期 間 5月27日～5月29日（2泊3日）
 参加者 インドネシア高校生5人、ホストファミリー3家庭

■浜松日本語学院「ホームステイ体験」をコーディネート

依頼者 浜松日本語学院
 期 間 9月10日（土）～9月11日（日）（1泊2日）
 参加者 留学生（ベトナム、台湾、インドネシア、中国）7人、ホストファミリー4家庭

■JICE「対日理解促進交流プログラム（JENESYS2016）」をコーディネート

依頼者 一般財団法人 日本国際協力センター（JICE）中部支所
 期 間 9月30日～10月2日（2泊3日）
 参加者 インドネシア、ミャンマー 合計52人、ホストファミリー21家庭

■「静岡大学留学生ホームステイ体験」をコーディネート

依頼者 静岡大学 国際交流センター
 期 間 11月18日（金）～11月20日（日）（2泊3日）
 参加者 留学生（インドネシア、インド、マレーシア、ベトナム、バングラデシュ、中国、タイ）15人、ホストファミリー11家庭

■コロラド・カレッジ「Studying in Asia」をコーディネート

依頼者 コロラド・カレッジ（協力：静岡文化芸術大学）
 期 間 3月14日～3月20日（6泊7日）
 参加者 学生3人、ホストファミリー3家庭

※その他、下記のコーディネートに協力

- ・JAAC 日米学術センター（オーストラリア高校生 4 名、2 ヶ月間）
- ・コロラド・カレッジ（アメリカ人学生 6 名、中国人留学生 5 名、6 泊 7 日）
- ・JAAC 日米学術センター（イタリア人高校生、1 年間）
- ・静岡大学グローバル企画推進室（インド人 3 名、インドネシア人 7 名、2 泊 3 日）

③通訳ガイド・ボランティア研修会（57 人）

日 時 7 月 23 日（土）13:30～16:30

会 場 多文化共生センター

内 容 外国人観光客からの知名度が非常に高い観光ボランティアガイドグループである TOKYO FREE GUIDE の講師陣より、ボランティアガイドの体験談やおもてなし方法、英語のスキルアップについて学んだ。

講 師 TOKYO FREE GUIDE 川本佐奈恵、桐生隆久、村上純子

参加者 57 人

共 催 静岡県国際交流協会

5. 担い手の支援：国際交流活動支援事業

参加者数：延べ 11,436 人 34 件（昨年度 11,107 人）50 件）

①多文化共生・国際交流推進事業費補助金の交付（29 件）

浜松市内で活動する多文化共生・国際交流関係団体を支援するため、多文化共生・国際交流推進事業費補助金を交付した。 (円)

No.	主催団体	対象事業	交付確定額
1	NPO 法人浜松日中文化交流会	日中文化の集い（国際交流）	100,000
2	浜松市中学野球国際親善育成会	第 26 回国際親善中学野球交歓試合 台湾大会	90,000
3	イニセアフリカ	AFRICAN LIVE! Vol.4	180,000
4	日本ペルー国際協会	ペルーまつり IN はままつ 2016	300,000
5	一般社団法人グローバル人財サポート浜松	グローバル人財育成研修プログラム in ダバオ	150,000
6	多文化共生社会をめざす会	多文化子ども学習支援事業	45,000
7	浜松ミュージック・アート少年団	浜松ワールドミュージックフェスティバル 2015 こどものための音楽会	280,000
8	NPO 法人浜松日中文化交流会	中国春節の集い（国際交流）	130,000

9	CORES	第5回グローバルストリートフェスタ	287,000
10	細江町国際交流協会	在住外国人との料理交流フェア	36,000
11	YACHAY	スペイン語読み書き教室 YACHAY	489,700
12	KSC 子どもサポーターズクラブ	外国にルーツを持つ子どもたちへの学習支援	400,000
13	NPO法人浜松日本語・日本文化研究会（にほんごNPO）	外国人住民に対する日本語学習支援「にほんご木曜教室」	250,000
14	NPO法人浜松日本語・日本文化研究会（にほんごNPO）	外国人住民に対する日本語学習支援「にほんご日曜教室」	500,000
15	そらの会	放課後「そらの会」	200,000
16	ミジョナリオ	さなる de にほんご	100,000
17	特定非営利活動法人ARACE	アラッセ 希望教室	412,000
18	WISH	外国籍児童就学促進支援事業	187,000
19	龍の会	外国籍児童生徒への日本語教育及び学習補助支援	225,000
20	NPO法人AIPEACE	日本語および日本社会に関する学習支援事業	366,000
21	中国文化交流会	中国人のための日本語勉強会	120,000
22	浜北国際交流協会	浜北国際フェア	28,000
23	国際親善サッカー大会実行委員会	第16回国際親善サッカー大会 細江大会	92,500
24	わたぼうしグラウンドデザイン	浜松学院大学インターナショナルスクール	500,000
25	多文化共生社会をめざす会	多文化子ども学習支援事業	52,000
26	NPO法人フィリピンナガイサ	タガログ語教室	20,000
27	NPO法人フィリピンナガイサ	フィリピンナガイサ国際交流事業	45,000
28	トラディション&パンシオンマリネーラ協会	母文化「マリネーラ」教室	39,000
29	浜松市浜北日中友好協会	日中友好交流事業	52,000
合計			5,676,200

②天竜地域事業（1,444人）

■日本語教室（市委託：外国人学習支援センター事業）

期 間 平成27年4月10日～平成28年3月26日

日曜日 10:00～11:30 全43回

会 場 二俣協働センター他（天竜区二俣町）

内 容 会話クラス、日本語能力試験受験クラス、児童日本語クラス

受講者 登録者数 延べ18人 参加者 延べ232人

国籍 インドネシア、ブラジル、タイ、ベトナム、フィリピン、ペルー、中国

■英会話教室（自主事業）

会 場 二俣協働センター、光明ふれあいセミナー 延べ576人

初級（18回）＊前期のみ （火）13:30～15:00	中級（18回） （火木）19:30～21:00	上級（18回） （木）19:30～21:00
前期4月19日～9月15日	17人	
後期10月18日～3月16日	15人	
合計		32人

■イングリッシュ・ブック・ディスカッション（自主事業）

天竜区内在住のアメリカ人英語講師により、英文小説を読み、英語でストーリーについてディスカッションすることで、英語のスキルアップを目指した教室を開催。中級（TOEIC450点以上）。

会 場 光明ふれあいセンター（天竜区山東）

前期(8回) 4月2日～7月16日	後期(12回) 10月15日～3月25日
8人	8人
合計 16人 延べ160人	

■やさしい英語で親子クッキング（自主事業）

日 時 3月26日（日）14:00～16:00

会 場 二俣協働センター

内 容 カナダ人の英語教師を講師に、親子を対象にして、英語で料理教室を開催。カナダのトライフルというスイーツを作った。

参加者 36人

■光明ふれあいまつり参加（自主事業）

日 時 2月19日（日）9:00～15:30 会 場 光明ふれあいセンター

日 時 3月5日（日）9:00～15:00 会 場 二俣協働センター

内 容 世界を知ってもらうためのクイズとHICE活動紹介

参加者 各220人程度

③セミナー・ルームの活用（市委託：多文化共生センター事業）（10,883人）

浜松市多文化共生センターのセミナー・ルームをオープンルームとして一般に公開するとともに講座・セミナー等の事業活動に利用した。

年間利用者数 10,883人

④文化共生・国際交流活動支援事業（市委託：多文化共生センター事業）（17人5件）

■多文化共生活動団体への支援及び助言

- ・ペルー人グループ（Peru Cultiva Arte）活動支援（新規）
ペルーの伝統舞踊マリネラダンスの体験講座を開催支援
7月8日～29日（金）計4回（中部協働センター共催）
- ・外国にルーツを持つ若者グループ（COLORS）活動支援
静岡県立浜名高校、県立磐田南高校において出前講座 各4回
- ・国際交流を進めるグループ（フレクティブ：フレッシュ・アクティブ・コミュニケーション）活動支援
「多言語 de 世界のクッキング体験」事業共催 年10回
- ・フィリピン人の英語の先生のグループ（Filipinos English Teachers in Japan:FETJ）の活動支援
日本人・フィリピン人の3歳から7歳までの子ども連れの親子を対象に、歌やゲームを通して楽しく英語に親しみながら参加者どうしの交流を行う会「親子でEnglish」の開催を支援。
日曜日 10:00～12:00 開催 年6回
- ・国際理解教育活動を進める市民グループ（はままつ国際理解教育ネット）の活動支援
国際理解教育の担い手となる人材育成のための「国際理解教育ファシリテーター養成講座」の開催を支援。（4回）
- ・フェアトレード推進の市民団体「はままつフェアトレードタウンネットワーク」の活動支援
浜松市でフェアトレードを推進し、フェアトレードタウン認証を取得するべく活動している市民団体が定例ミーティング（月1回程度）を開催したり、イベント（「はままつエシカル・ビジネスのつどい」2016年12月10日（土）アクトシティ浜松）を開催するのを支援した。

■多文化共生活動者ネットワーク化事業

「補助金説明会&国際交流・多文化共生情報交換会」

日時 5月29日（日） 14:00～16:00

会場 多文化共生センター

内容 ・多文化共生・国際交流推進事業費補助金の説明
・「はままつ多文化共生 MONTH 事業」の説明
・各団体の活動紹介及び情報交換

参加者 10団体 17人

6. 情報提供事業

提供者数：延べ 5,853 人（昨年度 6,706 人）（情報カウンターでの提供数のみ計上）

① 機関紙 HICE NEWS の発行（自主事業）

当協会の活動内容や講座等を掲載。日本語、ポルトガル語、英語の三ヶ国語で発行し、HICE 会員や外国人児童生徒の保護者、外国人学校、協働センター等の公共機関に配布・設置した。

発行部数：日本語版 2,500 部 ポルトガル語版 2,100 部 英語 800 部 合計 5,500 部

発行回数：毎月 1 日発行 年 11 回

② ホームページの運営（自主事業）

ホームページアクセス合計数 927,826 件				
	日本語	ポルトガル語	英語	中国語
HICE	○	○	○	-
多文化共生センター	○	○	○	○
外国人学習支援センター	○	○	○	○

③ Facebook の運用（自主事業）

「いいね」合計数 2,669 件

④ HICE info メールによる情報配信（自主事業）

会員・ボランティア等に情報を配信。年間 51 回配信。

配信先 2,159 人

⑤ CIR NEWS の配信（自主事業）

国際交流員（CIR）による英語・日本語併記の文化紹介メールマガジンを毎月配信

配信先 778 人

⑥ 情報カウンターの設置（市委託：多文化共生センター事業）（5,853 人）

情報カウンターにボランティアを配置し、外国人市民・日本人市民に対し、必要な情報を提供した。

提供数	外国人	日本人	合計
	2,579 人	3,274 人	5,853 人